

# 平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 54

所管部局	企画管理部	所管課	企画推進課	担当者名	中島 しのぶ
事業名	国民文化祭推進事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	国民文化祭推進事業			政策体系	135
会計	一般会計	科目	2.総務 - 1.総務 - 6.企画		

## 1. 事業の概要

「工芸」というものづくりに視点をあて、市内で活躍されている工芸家や文化団体、個人がそれぞれ取り組まれている活動を紹介する催しを開催するなど、市民レベルによる国民文化祭の開催に向けた取り組みを進めるとともに、「ものづくりのまち南丹市」を市内外へアピールする。

## 2. 事業の目的と必要性

### ①施策で目指す目標との関連付け

文化芸術の振興を図るための事業。  
国民文化祭の成功に向けた独自の取り組みを通じ本市の大きな特長である「ものづくり」の文化を内外に広めることをめざす。

### ②事業を実施する必要性

平成23年度に京都府で開催される国民文化祭の周知は薄く、市域全体の気運の醸成が必要。

## 3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円		324	476	501	1,029	5,000	
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円		0	0	0	0	0	
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	480	0	0	
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	324	476	21	1,029	5,000	
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.40	0.30			
人件費	千円	—	—	2,644	2,014			
事業費総額	千円	—	—	3,120	2,515			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

- ・国民文化祭実行委員会負担金 36,356円
- ・工芸文化祭実行委員会補助金 360,000円
- ・伝統工芸職人展 103,572円

## 5. 事業結果の概要

- ・国民文化祭南丹市実行委員会設置（7月21日～）
- ・工芸文化祭開催（1月30～31日）
- ・京都伝統工芸職人展開催準備

## 6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
<b>(1) 工芸文化祭開催事業</b>		
●工芸文化祭 国民文化祭に向けた気運の醸成、市民の一体化、市域の一体化の醸成を目的として、市域で活躍される工芸家の紹介と作品展示、市文化協会連絡協議会の作品展示、各作業所、授産施設の作品発表等を開催した。 京都府南丹広域振興局の実施する次世代へつなぐ南丹文化フォーラム並びに南丹教育局の実施する南丹工芸美術教育展とのジョイントによる開催とした。●南丹職人はっけんマップ作成 工芸文化祭実行委員会として、京都匠塾、伝統工芸大学校学生サークル「こたくみ」の協力を得て、市内で活躍されている職人を紹介する小冊子を作成した。	1月30日～1月31日 ※展示期間は2月7日まで	補助金交付 360,000円 来場者 4,500人
<b>(2) 国民文化祭実行委員会負担金</b>		
●国民文化祭南丹市実行委員会 国民文化祭イベントへの位置づけをもって平成21年度に京都で開催予定の「工芸品月間国民会議」について、先催県の岐阜県大会を視察研修した。	7月21日～	南丹市実行委員会を組織した。 先催県の開催内容を研修するため静岡県視察（11/7）を行った。
<b>(3) 伝統工芸職人展開催事業</b>		
●京都伝統工芸職人展「用の美の空間」 美山かやぶき美術館を会場に、NPO法人京都匠塾と市の共催による職人展開催のため、開催案内チラシの作成を市で担当した。他の費用は匠塾の負担による。 展示とともに、若手職人による実演の企画を盛り込み、参加者募集と宣伝を図った。	1月～3月（準備期間）	平成22年4月1日～4月25日の開催 出展参加者数 19人

## 7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

平成23年度の国民文化祭（京都大会）の円滑な開催に向け、「第26回国民文化祭南丹市実行委員会」を設置した。また、イベントとしての「ものづくり南丹文化伝承特別講演会」「南丹ものづくりの祭典」の開催や「南丹工芸文化祭」の規模拡大を図った。今後においても「ものづくりのまち」を市内外へアピールするとともに、国民文化祭に向けての市民への周知、機運の醸成を図る必要がある。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点  
国民文化祭の成功に向け、事前の独自事業の取り組み等について議論を重ねた。
- ②当該事業のアピール事項  
「ものづくり」という本市の特長を内外にPRする。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
国民文化祭の積極的な周知活動が必要である。